



佐野短期大学学報

か た く り

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町973

電話 (0283) 21-1200

佐野短期大学
創立15周年記念



おせち献立

- 田作り
- ゆず釜入り紅白なます
- 昆布巻
- 鶏のロール蒸し焼き
- かまぼこの飾り切り
- だて巻き
- 栗きんとん
- 梅花にんじん

年 頭 の ご 挨拶

心の^{ひだ}襞を育もう

理事長・学園長 池田 健次

新年あけましておめでとうございます。
新しい年、誰しも夢と希望を持って迎えられたことと思います。

大晦日に大掃除を行い、除夜の鐘を聞き、年越しそばを食べる。元旦の朝には、御とそや雑煮をいただき、初詣を行い新たな年の無事息災を祈る。これは日本全国で繰り広げられる伝統的行事であります。除夜の鐘の音の余韻に、過ぎ去る年の想いと来る年への期待を込めるとき、「時」そのものへの愛おしさを感じます。

悪戯にエセ西洋文化に被れ、日本人固有の文化・伝統を意図的に否定し、東洋人特有の情的意識形成を捨てた結果が、現代日本社会を混迷の中に誘い込んでいる大きな要因であります。

日本大学の目的および使命の中で「日本大学は日本精神にもとづき道統をたつとび…」さらに「広く知識を世界にもとめて深遠な学術を研究し…」とあります。まさに和魂洋才の精神を崇高に謳いあげています。この精神は現代社会に生きる全ての人々にとっても心に留めておきたい理念であります。

最近の国内での出来事を見ると、心の重さを感じるのは私一人ではないと思います。利益追求に走り企業倫理・社会的責任の喪失を表す出来事や、生命の尊厳を否定する弱者への痛ましい出来事の頻発などの原点は、私たち一人ひとりの心の中に潜んでいるものです。

情報機器の発達には私たちの生活に大きな革命をもたらしました。私たちが得る情報の殆どは映像を媒体としています。映像情報は思考回路の短絡性を促進し、知らず知らずのうちに心を耕す機会を奪っているように思います。

その結果として、「右か左か」「白か黒か」「イエスかノーか」の二者択一的単純思考に陥っていないでしょうか。年齢を問わず活字離れ、読書離れが指摘されるのもその現れであります。読書による行間を読み取る手法が欠落していないでしょうか。

「阿吽の呼吸」という言葉があります。これは「共に一つの事をするときなどの相互の微妙な調子や気持」の意味です。この言葉は相手の立場や心を押し量り、相手の立場に立って生きることの大切さを教えています。自己を主張し、自己を防衛することに心を奪われ、他者を省みない言動に接する度に私は心の寂しさを感じます。

「心のひだ」という言葉があります。教養を高め、強い自己啓発力を身につけることが豊かなひだを備えた心(人間性)を育みます。

この一年が皆さんにとり、表皮的文化に惑わされず落ち着いた歩みの中で心を磨き、心のひだを少しでも増やすことのできる充実した年となりますよう期待します。



自分達の目指すもの

学 長 谷 島 一 嘉

あけましておめでとうございます。

昨年は本学の 15 周年で、次の 20 周年に向けて更なる飛躍が期待されます。ご承知のように各短大は今後ますます続く厳冬の時代の生き残りに必死になっております。本学を取り巻く状況も厳しくなる一方であります。教職員が本当に一体になって、学生とともに工夫していかなければならない現状です。学科の壁を取り払い、各学科、専攻の教職員ではなく、佐野短大の一員であることを今一度ご認識ください。

昨今、暗いニュースばかり紙面を賑わせました。幼い子の命が次々と失われ、人の命の大切さを理解しようとしないう人間が連鎖的に出ている、自分の収入を増やすことだけに気をとられ、人のことなどどうでもいい建築会社、設計士、施工業者、検査機関等々、まだまだ冰山の一角に過ぎないと思います。なぜ日本はこうもモラルが低下してしまったのでしょうか。今までの教育が悪かった、外国人犯罪が増えたことが原因だ、などという人は多いのですが、それだけで済まされる問題ではありません。人口の減少に伴う労働力の減少で、今後日本はさらに人口の三分の一程度の外国人労働者が増えるといわれています。

本学では一昨年から「自分の頭で考える教育」を実践しております。人の意見やインターネットの情報でなく、自分の頭でよく考えてみる習慣は、小さいときからでなければ身につくものではないでしょう。本学でその精神を学び、自分の子供にその精神を受け継がせてゆく、そういった人が核になって今後の日本を築いてゆくのです。我々はそういう青年を育てているという自覚を改めて全教職員が持つてください。伝統ある佐野日本大学学園とともに、本学も発展しましょう。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

第 2 回 読書・映像感想文コンクール入賞

映像部門「あきらめのちくもり」

英米語学科 1 年 佐藤 遥

みんなは知っているだろうか。去年の夏、熱きイレブン達が勝ち取った優勝神話を。おそらく知っている人は私の周りではそう多くはないと思う。サッカーが好きなら耳を傾けることとは思うが、それ以前に、興味のない人はそんなことがあったのかくらいの質問を問いかけてきそうではない。もし百人に聞いてみるなら、半数以上もの人達がそれは「アテネ五輪」と返答することと思う。でも私が伝えたいのはオリンピックのことではなくそれより少し前の、七月に行われたサッカーアジア杯でのこと。目を瞑らずとも今でもはっきりと覚えている。選手たちの勇姿を、そして数々ものドラマを。

ちょうど日本が勝ち進んできて、準々決勝あたりにもつれかかっている時だった。その頃私は高校三年生で部活一本の自分だったから、バスケットボールに明け暮れている日々であり、その時期は高校最後の夏の校内合宿をやっている時だった。サッカーの試合の時間に自分達の練習の時間が重なると、意識が分散したかのように集中力が途切れ、時間を気にする回数も増え始めるのである。まだか、まだかと監督の方を睨み続けるも、その思いもあっさり打ち消され、練習は延々と続いた。

焦燥を抱いたまま試合が終わりを迎えるか、迎えないかの瀬戸際に監督が教官室を抜け、下の階段を下りていった時があった。もう自分は頭よりも先に体が出ていた、と言うより足が出ていたと言った方が正しい。迷うことなく教官室のテレビを急いでつけ、同い年の仲間や後輩も呼んでわずかな時間を楽しんで見た。そのくらいサッカーは好きだった。もちろん過去形ではなく進行形だ。でもそれが私の伝えるべきところではない。私が最も言わんとしておきたいことは、このアジア杯で多くの人達に感動よりもさらに大きな財宝を残してくれたということだ。それを感じたのは、もしかしたら私だけかもしれない。でもそれを随所に感じた試合だった。

あの頃自分は部を引退しようか、続けようか迷っていた時期があったから余計に強く感じたのかもしれない。もう、いいだろうと本気で思った。自分がやれるのはここまでなんだと言い聞かせていけばいいと思っていた。でもアジア杯で大歓声と大ブーイングを背負い闘う選手たちの表情を見ていると、何だか自分がひどくちっぽけに思えた。一瞬の緩みも見せない彼らは、まるで勝ちを見据えているようだとしたら不思議な言い方ではあ

るが、顔が、表情が、視線が真っすぐに相手に向けられ闘っていた。自分達がどんな不利な状況に立たされていようと決して彼らはあきらめなかった。それが優勝に結びついた絶対的な理由ではないだろうか。確かにあきらめる、あきらめないで勝るといったら話は別だが、ましてや世界のサッカー、そんな単純なレベルではないとは思っている。でもこれだけは言える。彼らは最後までピッチにいた。自分も心を打たれているのと同時に答えがはっきりと出ていた。それは、「あきらめずに続けよう。」という意識の芽生えであった。

それが私の「あきらめない」ということに対する想いです。最終的にたどっていくとあきらめない気持というのはスポーツだけでなく、全てにおいて関わってくるのだと思います。もし何か人生の中間地点で先に進めない思いや悩みをかかえているのなら、何かをやり残した思いを感じたのなら、次からはもう少しあきらめずにやってみてほしいと思う。それで本当にやり遂げた時にあきらめて、やめればいい。そうすれば悔いる気持ちも少なくなるかもしれないし、もしかしたら達成感を味わえるかもしれない。だからこのアジアカップで得た自分への思いは、私の中で永久保存版になっている。何かがきつと変わると思うから、自分はこれからもあきらめずにいきたい。

《受賞者》

読書部門	優秀賞	英米語学科 1 年	山中 朋美
		児童福祉専攻 2 年	中島千江美
映像部門	佳作	英米語学科 1 年	大塚 里奈
		英米語学科 1 年	佐藤 晴美
	優秀賞	英米語学科 1 年	佐藤 遥
		佳作	英米語学科 1 年

創立15周年記念論文集刊行

図書館長・研究担当 佐藤 秀一

本年度、佐野短期大学創立 15 周年を迎えるに当たり、毎年発行している『研究紀要』とは別に記念論文集を刊行することとなった。寄せられた論稿数は 21 編にもなり、諸先生方の不断の意欲的な研究の成果が掲載されている。今後もさらなる内容の充実を目指し、活発な研究活動を続けられるようお願いしたいと思う。

短大トピックス

桐生しんまち 最優秀賞 名物料理コンテスト



12月7日、桐生しんまち名物料理コンテストが開催され、栄養福祉専攻1年三嶋紗緒里さんの料理「紗温井」が最優秀賞を受賞しました。

開学15周年記念公開シンポジウム

公開講座委員長 須江 國雄

11月18日(金)、新佐野市誕生と本学開学15周年を記念して、公開シンポジウム「新佐野市合併後のまちづくりを考える」が開催され、参加者約250名程で成功裏に終了した。

第1部は、早稲田商店会エコステーション藤村望洋事業部長が、商店街のリサイクル運動とイベントを組み合わせ、まちおこしを成功させた実践的な基調講演をされ、埼玉県穂坂邦夫前志木市長が、市民参加の行革を推進した事例、長野県小布施町「ア・ラ・小布施」関悦子取締役が、コミュニティビジネスの先進事例と、共に実践的な報告があった。

第2部は、須江が市民参加型のまちづくりを目指す「研究会」設立を提案して、コーディネーター山田教授により、シンポジウムによるまちづくりと活性化が議論され、最後に、國分教授の閉会の辞で盛会のうちに終了した。全教職員と学生の協力の賜物である。

ブログ始めました



初めまして。社会福祉専攻1年の松山充と申します。私の長男は「高機能自閉症」という障害を持っています。この障害についてのHPを開設

しました。よかったらご覧ください。

<http://www.geocities.jp/torakonn2004/>

慶事

誕生

大橋義成(入試広報室) 女兒 悠乎 平成17年12月1日

シスアド合格



①システムアドミニストレータ
②日商ワープロ2級
経営情報科 1年 坂本 浩昭

ボキャブラリーコンテスト

11月29日 (英米語学科)



ボランティア標語 入賞作品

最優秀賞 ボランティア 心と心の ハーモニー
介護福祉専攻1年 大出 侑奈

優秀賞
介護福祉専攻1年 戸谷 裕子 介護福祉専攻1年 青柳沙耶香
介護福祉専攻1年 中村 由季 栄養福祉専攻1年 大貫 真美

佳作
介護福祉専攻1年 阿部 美穂 介護福祉専攻2年 塚原 宏道
栄養福祉専攻1年 北村 真弓 栄養福祉専攻1年 田野井愛実
栄養福祉専攻1年 松島 満留

WORLD PC EXPO 見学

東京ビックサイト10月28日(経営情報科1年)



学報編集委員

立川聡子・佐藤秀一・古川慎一・大熊信成・新井文子
高橋登美子・藤田 睦・亀田英三・大橋義成・齋藤 彩